大洲町総合振興計画
報告会

2021年8月2日（月）

大洲町の課題

大洲町,


人口減少・少子高齢化
町の存続の危機
居住人口減により
町運営が
困難になる可能性
町の未来を
担う若手の不足
運営メンバーの
高齢化
公共を支える
ボランティア活動
等による町民の
負担増

今回のプロジェクトの概要

大洲町

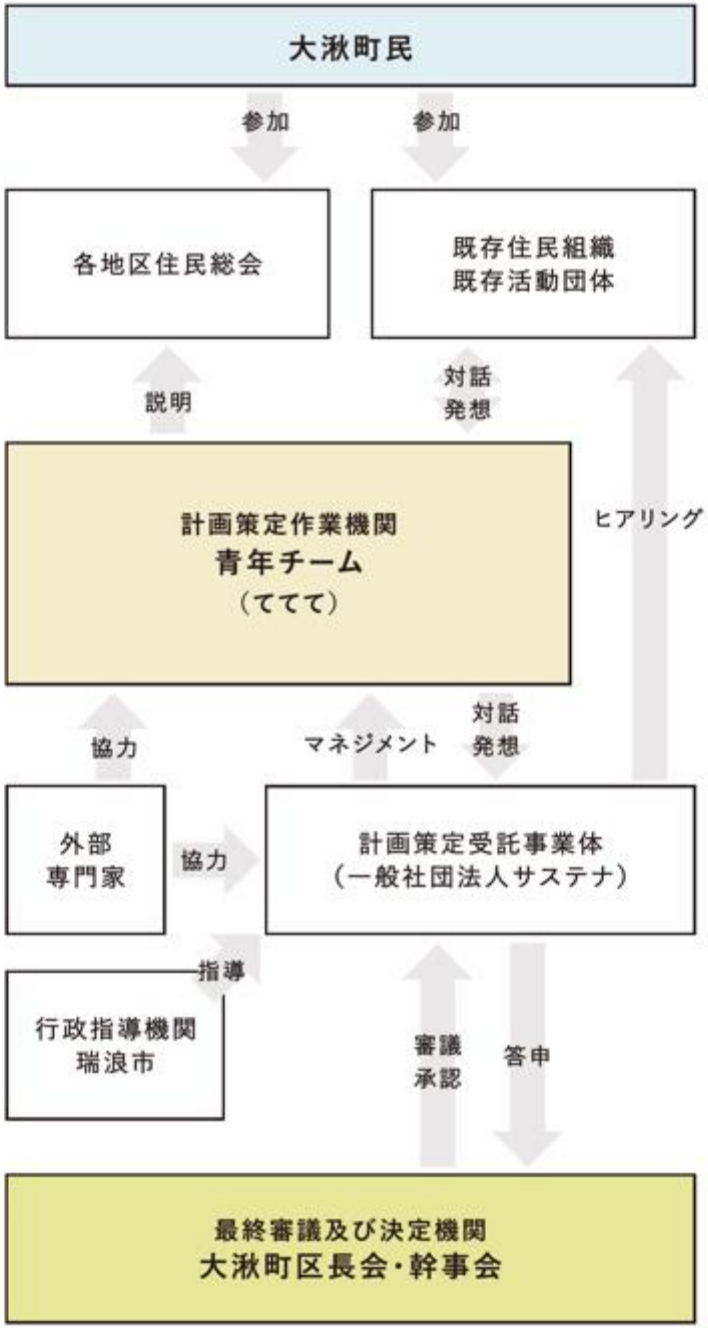
町の向かうべき
方向性を定め
町民理解のもと
町を運営

×

町民の
自治意識の醸成と
新たな担い手の
確保と育成

大洲町の若手主導による
大洲町振興総合計画の策定




大洲町民
参加
参加
各地区住民総会
既存住民組織
既存活動団体
説明
対話
発想
計画策定作業機関
青年チーム
（てくて）
ヒアリング
協力
マネジメント
対話
発想
外部
専門家
協力
計画策定受託事業体
（一般社団法人サステナ）
指導
行政指導機関
瑞浪市
審議
承認
答申
最終審議及び決定機関
大洲町区長会・幹事会

これまでの流れ

実施日	内容
4月20日(月)	過去の行政計画等関連資料、現行計画(大洲町)の収集と把握
4月21日(火)	過去の行政計画等関連資料、現行計画(大洲町)の収集と把握
4月22日(水)	過去の行政計画等関連資料、現行計画(大洲町)の収集と把握
4月27日(月)	過去の行政計画等関連資料、現行計画(大洲町)の収集と把握
5月 1日(金)	幹事会報告
5月 5日(火)	「町民ミライ会議」の計画　高野教授打ち合わせ
5月 8日(金)	青年チームの人材選定・ヒアリング
5月 9日(土)	青年チームの人材選定・ヒアリング
5月10日(日)	青年チームの人材選定・ヒアリング
5月11日(月)	青年チームの人材選定・ヒアリング
5月12日(火)	青年チームの人材選定・ヒアリング
5月15日(金)	青年チームの人材選定・ヒアリング
5月23日(土)	青年チームの人材選定・ヒアリング
6月 2日(火)	青年チームの人材選定・ヒアリング
6月 5日(金)	幹事会報告
6月 6日(土)	青年チームの人材選定・ヒアリング
6月 7日(日)	青年チームキックオフ会
6月21日(日)	各地域(神田、足又、北、西)住民総会での説明
6月28日(日)	第1回町民ミライ会議開催（名古屋大学大学院 高野雅夫教授講演）
7月 1日(水)	町民アンケート配布
7月 3日(金)	幹事会報告
7月 9日(木)	第1回青年チーム会議
7月12日(日)	アンケート回収
7月16日(木)	アンケート集計
7月21日(火)	アンケート集計
7月25日(土)	第2回青年チーム会議
8月 7日(金)	幹事会報告
8月23日(日)	第3回青年チーム会議
9月 4日(金)	幹事会報告
9月 6日(日)	第4回青年チーム会議
9月17日(木)	素案意見交換会

実施日	内容
9月24日(木)	第5回青年チーム会議
10月 2日(金)	幹事会報告
10月 6日(火)	幹事会・青年チーム合同会議
10月11日(日)	第6回青年チーム会議(素案のブラッシュアップ)
10月25日(日)	第7回青年チーム会議(素案のブラッシュアップ)
10月27日(火)	幹事会・青年チーム合同会議
11月 6日(金)	幹事会報告
11月 7日(土)	第8回青年チーム会議(素案のブラッシュアップ)
11月12日(木)	幹事会・青年チーム合同会議
11月19日(木)	事業所ヒアリング(大洲病院)
11月23日(月)	第9回青年チーム会議(総合振興計画原案の修正)
11月24日(火)	事業所ヒアリング(大洲機械化営農組合)
11月24日(火)	事業所ヒアリング(東濃ブロイラーセンター)
11月30日(月)	事業所ヒアリング(カタノピックファーム)
11月30日(月)	事業小ヒアリング(中仙道ゴルフ倶楽部)
12月 4日(金)	幹事会報告
12月18日(金)	委員会追加ヒアリング
12月22日(火)	委員会追加ヒアリング
12月26日(土)	委員会追加ヒアリング
1月 8日(金)	幹事会報告
1月22日(金)	総合振興計画案の審議会
2月 9日(火)	第10回青年チーム会議(総合振興計画案の修正)
2月12日(金)	幹事会報告
2月19日(金)	第11回青年チーム会議(総合振興計画案の修正)
3月 1日(月)	総合振興計画書最終稿確認・幹事会メンバーへ配布
3月 5日(金)	幹事会(最終承認)
3月27日(土)	第2回町民ミライ会議開催(報告発表会、交流会開催)

全11回の若手チーム会議、幹事会との合同会議3回

青年チーム結成


おおくて





名古屋大学・高野先生の講義











2020年6月28日(日)13:00～15:30@大洲町コミュニティセンター

みんなでつくる

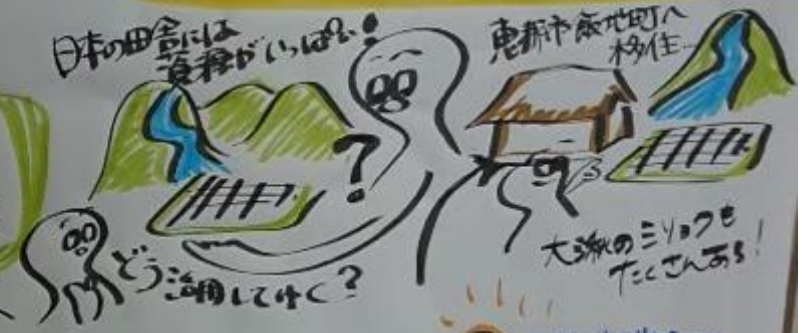
大洲のミライ 総合計画プロジェクト 2020

#1 キックオフ(学習会)

誰もが住みなれた場所で輝ける地域を



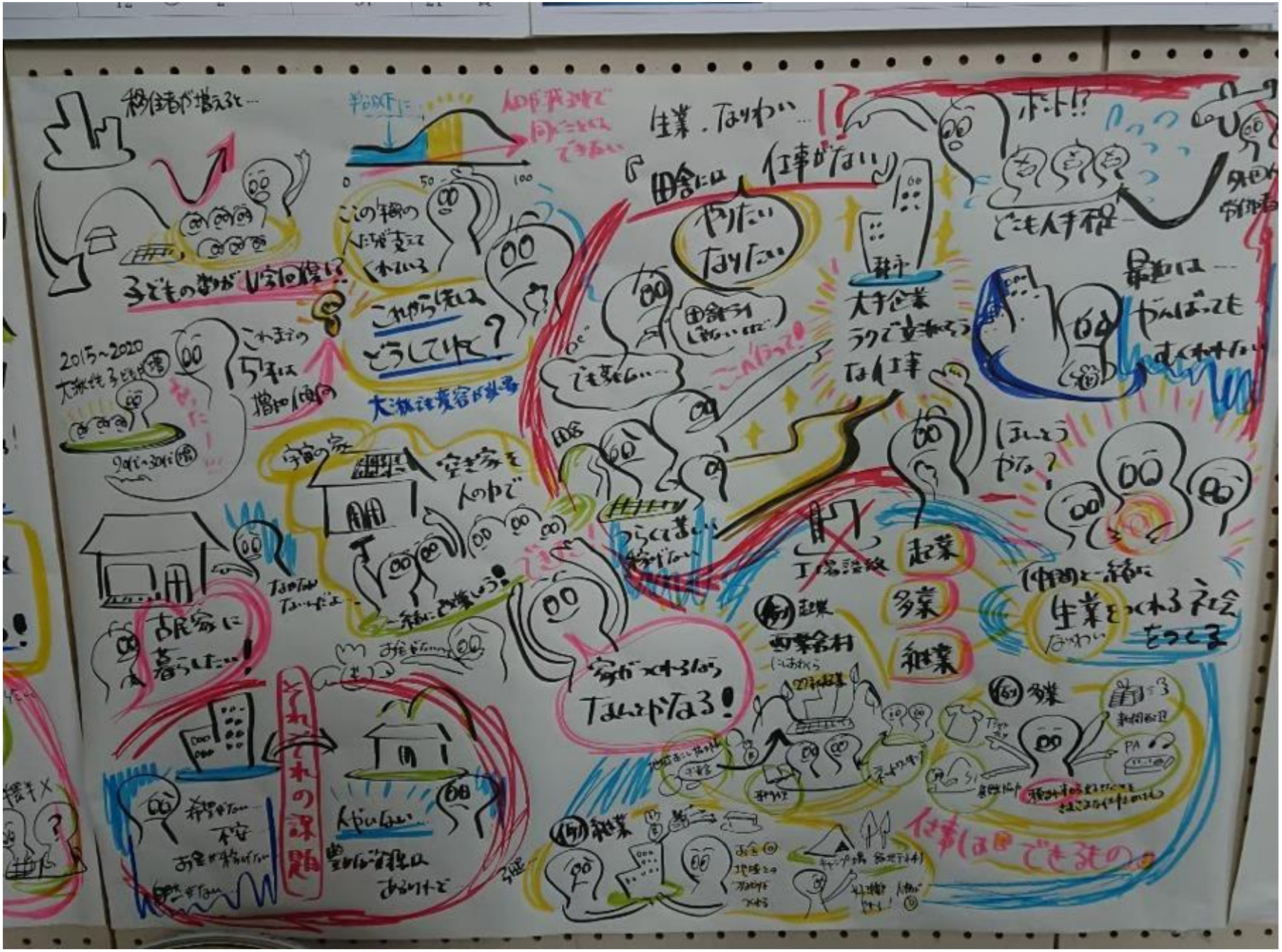
名古屋大学 環境研究科
教授 高野雅夫先生

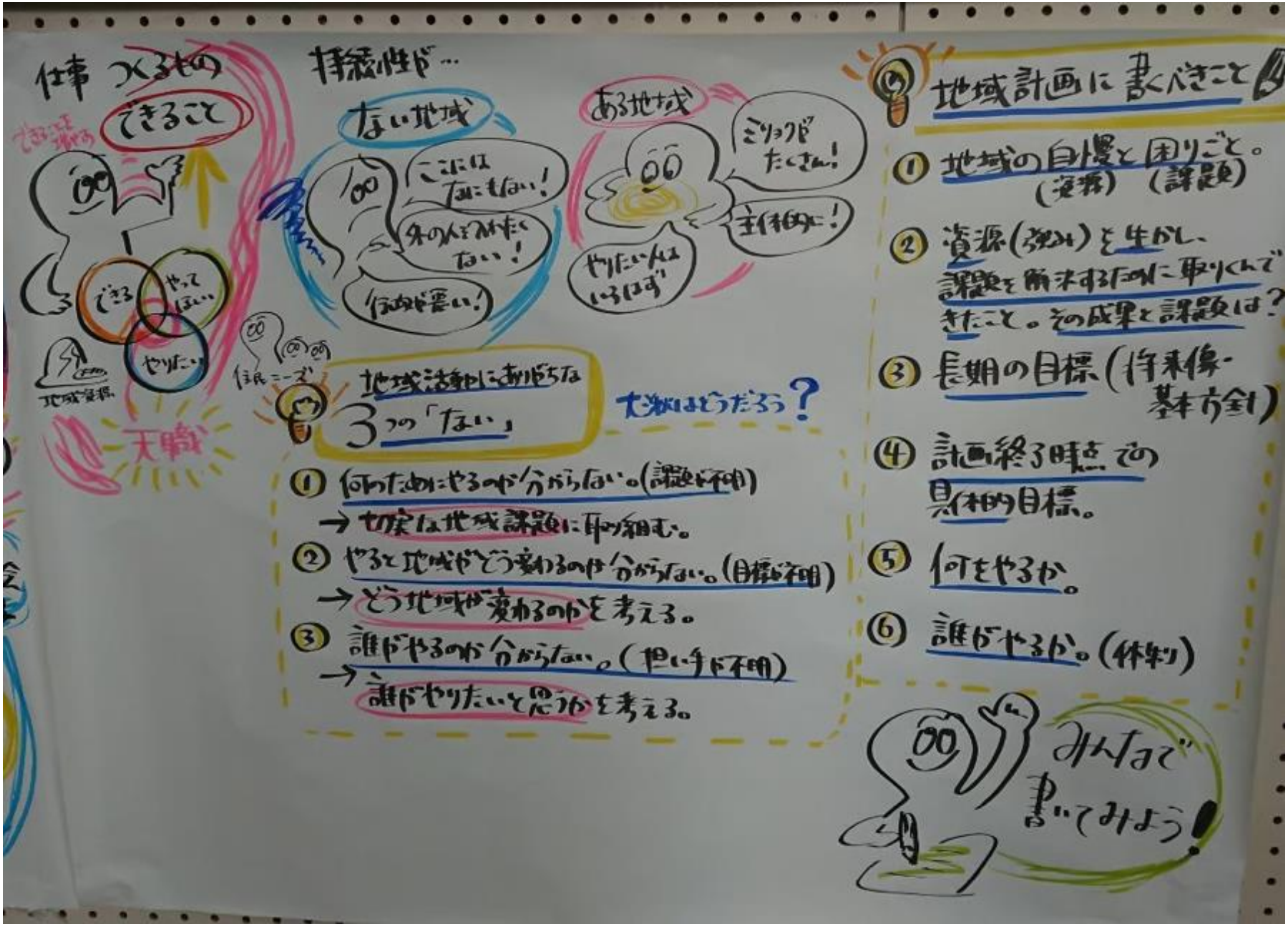


本日の流れ

13:00～14:30
名古屋大学 環境学研究科
教授 高野 雅夫 先生
よりお話し ○感想記入
15:00～15:30
全体共有




移住者が増えると…
子どもの数が1学年1000人増!!
2015~2020 大都市でも子どもが増
これまでの5年は増加傾向
これからそれぞれどうしていく?
大都市は変容が必要
0
50
100
この年齢の人たちが支えてくれいる
人口減少社会で同じことはできない
生業…なりわい…!?
田舎には仕事がない!!
やりたい
なりたい
田舎ライフしかない…
でも不安…
大手企業
ラクで安定そうな仕事
ホント!?
どこも人手不足…
最初は…
がんばってもすぐおわない
空き家を
人のトで
一緒に住もう!
宇宙の家
田舎に
古民家に
暮らしたい!
なかなか
ないんだよ…
つらくてきつい
稼げない
家がスキルになる!
工業高校
起業
多業
副業
ほしそうかな?
仲間と一緒に
生業をつくれる社会
なりわい
もつくる
起業
副業
兼業
農村
農村の課題
人がいない…
空き家
お金が稼げない
不安
仕事は自分でできるの?


仕事 つくるもの
できること
できる
やってほしい
やりたい
地域資源
天職
住民ニーズ
期待性が…
ない地域
ここには何にもない！
外の人が来てくれない！
活気が乏しい！
ある地域
ごりょうがたくさん！
主体的に！
やりたい人はいるはず
地域活動にありがちな3つの「ない」
大抵はどうだろう？
① 何のためにやるのか分からない。(課題不明)
→ 大切な地域課題に取り組む。
② やると地域がどう変わるのか分からない。(目標不明)
→ どう地域が変わるのかを考える。
③ 誰がやるのか分からない。(担い手不明)
→ 誰がやりたいと思うかを考える。
地域計画に書くべきこと
① 地域の自慢と困りごと。(資源) (課題)
② 資源(強み)を生かし、課題を解決するために取りくんできたこと。その成果と課題は？
③ 長期の目標(将来像・基本方針)
④ 計画終了時点での具体的目標。
⑤ 何をやるか。
⑥ 誰がやるか。(体制)
みんなで書いてみよう！



◎都市部の若者に見られる「逆都市化」の流れ

都市部の4割の若者が田舎の暮らしに興味がある。岐阜県にも年間1000人以上が移住していて70%が40代以下。

◎大湫町の取組成果は？

2010年-2015年の子供の数と、2015年-2020年の子供の数を比べると5倍に増えている。転入対策の取り組みで、町の未来がいっきに明るくなった。着実に成果が出ている！！

◎田舎にくる若者のマインド

受け入れ側が移住者の仕事の心配をしなくていい。仕事を用意するのではなく、仲間をつくりやすい地域であることが大事。

◎今後に向けて考える事

大湫町の70代と50代の人口を比べると、半分しか人がいない。今までやってきた取り組みを全部やるのは無理がある。これからの長期の目標を「大湫町が存続すること」と考えて、何を残して、何をやめるのか？新しくはじめる取り組みは何にするか？それは誰がやるのか？を考えていく事が大事。切実な課題に注力すること。地域を支える新しい形を模索して模索していかねばならない。

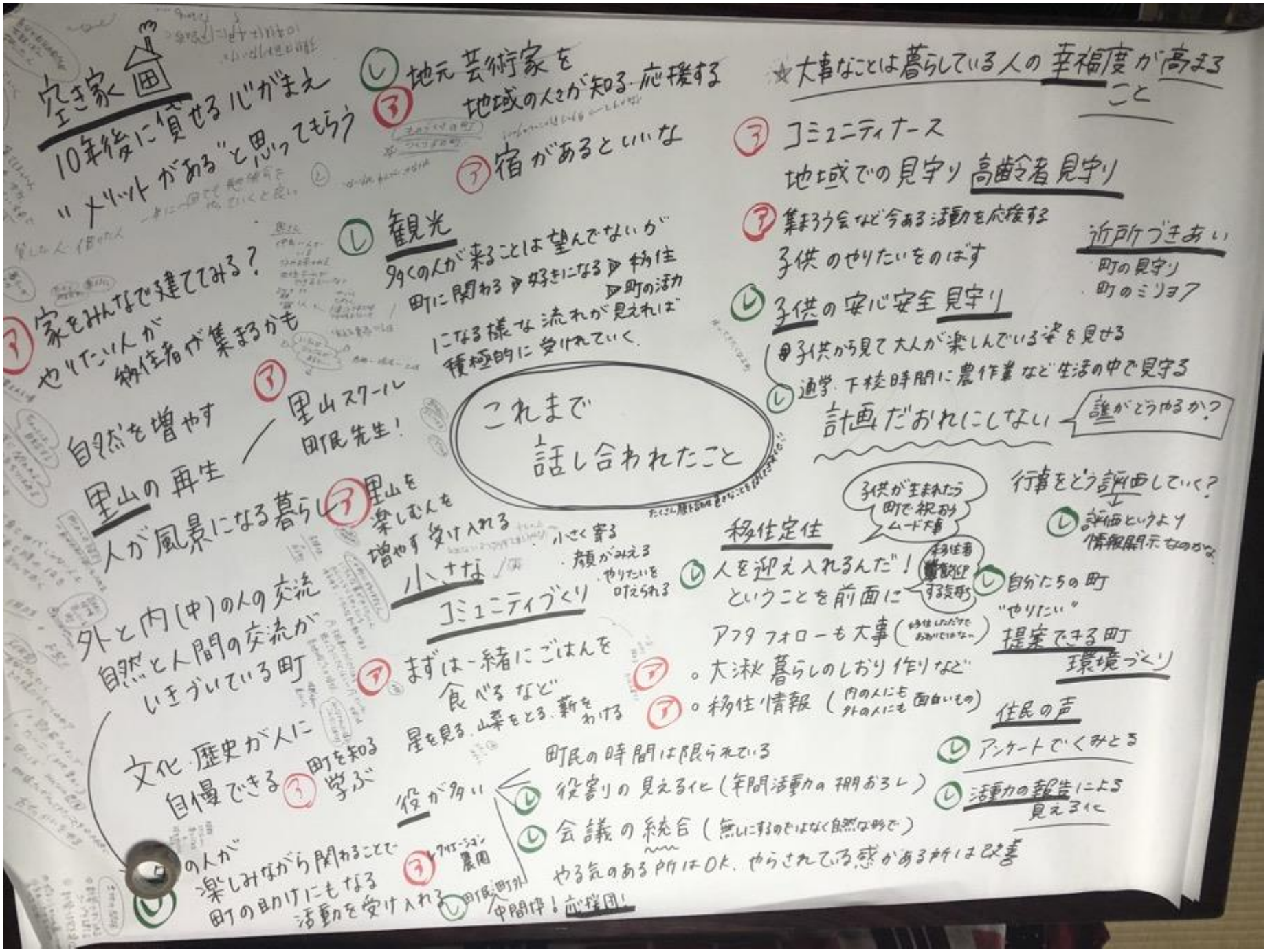
とても良い会になりました。私の役割はこの町がいかにすばらしいかを客観的な立場から若い世代にお伝えすること。何がすごいって、シニアのリーダーたちが「地域が消滅する姿が想像できた」ということ。そこからやれることはすべてやって、この5年で4歳までの子どもが1人から13人！に増えた。江戸時代の宿場の町並みを特別な条例や規則なしに守ってきたのもすごい。そこを若い移住者たちが引き継ごうとしています。地域を愛するココロが若い世代に引き継がれて行く現場に立ち会えて幸せです。（高野教授facebookより感想コメント）

青年チーム話し合い開始




大洲のミライ


大漁のミライ


空き家
10年後に負せる心がまえ
〃メリットがある〃と思ってもらう
地元芸術家を
地域の人さが知る・応援する
宿があるといいな
☆大事なことは暮らしている人の幸福度が高まること
コミュニティナース
地域での見守り 高齢者見守り
集まろう会など今ある活動を応援する
子供のやりたいをのばす
近所づきあい
町の見守り
町のミリョク
観光
多くの人が来ることは望んでないが
町に関わる→好きになる→移住
→町の活力
になる様な流れが見えれば
積極的に受けれていく
家をみんなで建ててみる?
やりたい人が
物件者が集まるかも
自然を増やす
里山の再生
人が風景になる暮らし
里山スクール
町民先生!
子供の安心安全見守り
子供から見て大人が楽しんでいる姿を見せる
通学・下校時間に農作業など生活の中で見守る
これまで
話し合われたこと
計画だおれにしない
誰がどうやるか?
行事をどう評価していく?
評価というより
情報開示なのかな
移住定住
子供が生まれたら
町で祝おう
ムード大事
人を迎え入れるんだ!
ということを前面に
移住者歓迎
する気持
自分たちの町
"やりたい"
提案できる町
環境づくり
アフターフォローも大事(移住したけどおみやげはない)
大淑暮らしのしおり作りなど
移住情報(内の人にも外の人にも面白いもの)
外と内(中)の人の交流
自然と人間の交流が
いきづいている町
小さな
コミュニティづくり
小さく育る
顔がみえる
やりたいを叶えられる
まずは一緒にごはんを
食べるなど
星を見る、山菜をとる、薪をわける
文化・歴史が人に
自慢できる
町を知る
学ぶ
住民の声
アンケートでくみとる
活動力の報告による
見える化
役が多い
町民の時間は限られている
役割の見える化(年間活動の棚おろし)
会議の統合(無しにするのではなく自然な形で)
やる気のある所はOK、やらされている感がある所は改善
の人が
楽しみながら関わることで
町の助けにもなる
活動を受け入れる
レクリエーション
農園
町民・町外
中間体!応援団!

最も大事なこと

① 持続していくこと

② 持続を目的とした時に

① 必ずやらなければならない事

② プラスアルファになるような の事（やりたい事）

例えば 草刈り、祭事 など

パターゴルフ大会 その他のレクリエーション

をわける。

① に関しては、できるだけ外の人にも助けを求める

② に関しては、
- やりたい人が気軽に始められる仕組みを！
- やめても良いという風土・文化づくりを！

町民アンケート実施

「大洲町総合振興計画」策定に向けた

「私と家族と地域の将来像」アンケート（調査票）

※ここで言う将来像とは「夢や希望」ではなく、「10年後の現実」のことです。

問１～問11まで、ご家族で話し合ってご回答ください。

《あなたのご家族の現在と将来について》

問１ 現在（令和２年６月２１日現在）、あなたと日常的に一緒に暮らしている家族等の構成について必要事項（A：あなたからみた続柄、B：性別、C：年齢）をご回答ください。また、現在、一緒に暮らしている家族等は10年後も同居しているかどうかをご回答ください。

	現在				10年後（将来）	
	A：あなたからみた続柄 ※下の選択肢から選んで番号を記入	B：性別 ※どちらか一方に○印		C：年齢 ※年齢を記入	D：現在の家族等が10年後に現在地で同居しているか。 ※どちらか一方に○印	
①	あなた本人（世帯代表の方）	1. 男	2. 女	歳	1. 住んでいる	2. 住んでいない
②		1. 男	2. 女	歳	1. 同居している	2. 同居していない
③		1. 男	2. 女	歳	1. 同居している	2. 同居していない
④		1. 男	2. 女	歳	1. 同居している	2. 同居していない
⑤		1. 男	2. 女	歳	1. 同居している	2. 同居していない
⑥		1. 男	2. 女	歳	1. 同居している	2. 同居していない
⑦		1. 男	2. 女	歳	1. 同居している	2. 同居していない
⑧		1. 男	2. 女	歳	1. 同居している	2. 同居していない

■続柄の選択肢■

1．配偶者
2．子
3．この配偶者
4．あなたの父母
5．あなたの配偶者の父母
6．孫
7．祖父母
8．兄弟姉妹
9．その他親族
10．その他

この欄は、あなたを含む現在の家族等が、10年後も現在地に「1. 同居している」のか、それとも、就職や結婚などの理由で、転居や転出することが予想され、「2. 同居していない」のかを回答いただくものです。家族で話し合って、10年後の家族の状況についてご回答ください。

※なお、ご高齢のご家族の方の場合でも、10年後もご健在であることを前提にご回答ください。

「大洲町総合振興計画」策定に向けた

町民アンケート（調査票）

問１～問7まで、ご自身の考えをご回答ください。

《地域の現状と将来について》

問1 あなたは、現在の大洲町について、魅力を感じますか。感じませんか。
1つを選んで番号に○をつけください。

1. 強く感じている。
2. 感じている。
3. 感じていない。
4. どちらともいえない。

問2 魅力を感じる、あるいは感じない点はどんなところですか。

問3 大洲町の人口減少対策について、どうすべきと考えますか。どれか1つを選んで番号に○をつけください。

1. 移住者（Uターンを含む）を積極的に受け入れ、人口増加に取り組むべきだ。
2. 地域外への人口流出を抑制し、現状維持に取り組むべきだ。
3. 人口の増加や維持に取り組む必要ない。
4. わからない。

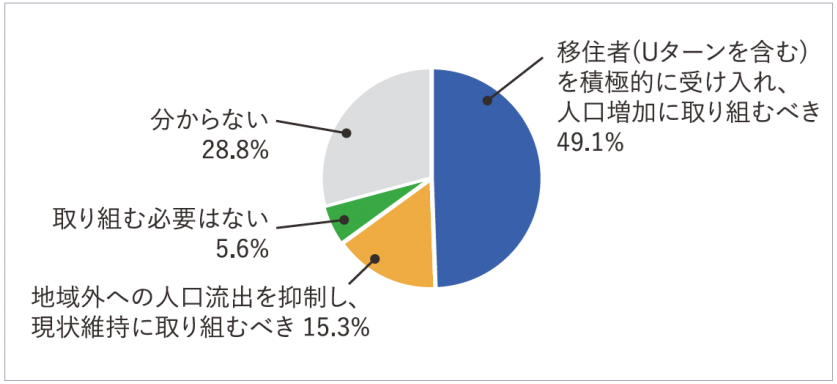
問4 大洲町の中で、あなたが大切にしたいこと、これだけは守っていきたいことは何ですか。3つまで選んで番号に○をつけてください

1. 住民同士のつながり
2. 文化財、文化的施設
3. 人と自然が共生した自然環境
4. 伝統的な里山の生活
5. 風習やお祭りなどの伝統文化
6. 農地や田園風景
7. 中山道や宿場などの観光資源
8. その他（　　）

アンケート結果まとめは計画書59ページ～記載

問3　今後の人口減少対策についてどのように考えますか。

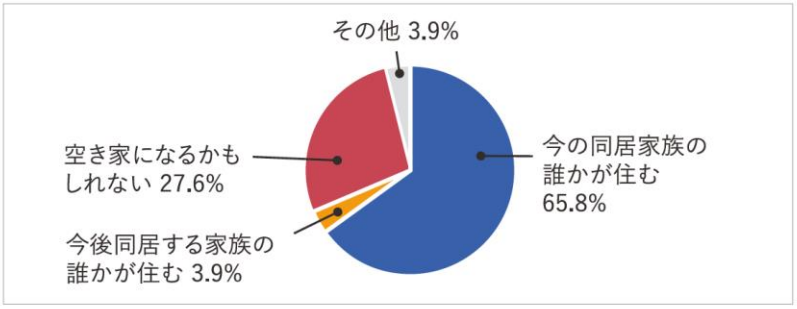
ほぼ全ての世代が、移住者を受け入れたり、Uターン（一度大湫を出て行った人たちが戻ってくること）を積極的に受け入れるべきだとの回答でした。



問6　10年後のあなたの世帯状況や家の築年数の状況を踏まえて、あなたの住んでいる家は、10年後どのようになっていると思いますか。

27.6%の世帯が「空き家になるかもしれない」と答えています。
10年後、大湫町では5戸に1戸が空き家になるかもしれません。

【住居の今後】



また、空き家になった後の活用について、半数以上の方が、「空き家のままにする」との回答でした。防犯の面からも、空き家を放置しない取り組みが急務です。

（結果抜粋）

- 10年後の大湫町は5戸に1戸が空き家になるかも？
- 半数近い住民が移住者をあたたかく迎えるべきとの考え
- 一方で、人が減って１人１人の作業負担が増えている

問5　行事、取り組み、活動等で、負担に感じていること

・ボランティア活動や行事の量に関すること・・・27件
（ボランティア、行事が多い等）

・行事の簡素化、自治活動・体制の見直し提案・・・13件
（今の人口に合わせた規模にする、行事・組織の再編等）

・役の増加、参加要請に関すること・・・10件
（役が多い、人口が減って負担が増えた、独居世帯への負担等）

・奉仕作業の内容に関すること・・・9件
（道路整備・管理の負担、公衆トイレ清掃への不安等）

・負担に感じていることは無い・・・9件
（どれも必要、特になし等）

・祭りの準備等に関すること・・・4件
（お供え物の量等）

・会議の方法、役員の選出に関すること・・・4件
（会議の回数、情報開示の必要性等）

活動の中でうまれた動き



【令和2年7月豪雨】樹齢1300年の大杉被災復興プロジェクト

大湫大杉を応援する若手有志の会



支援総額

6,686,000円 目標金額 5,000,000円

支援者 **288人**

募集終了日 **2020年12月20日**

プロジェクトは成立しました！

♡ 22

支援履歴の確認はこちら

シェア ツイート LINEで送る noteで書く









青年チームと区長の方々など
町の関係者の方と合同会議を開催



事業所ヒアリング









こうした話し合いの中からみんなで決めた
大洲町が目指すこと

OKUTE TOWN 5

大湫町の将来像

30年後に目指す大湫町の姿

大湫町が大湫町として存続していること

そして大湫町に暮らす住民が
「人」「自然」「歴史」「まち」に親しみを持ち、
住民同士のつながりや文化を大切にして
暮らしている姿を目指します。



1. 子どもは地域の宝です。地域の皆で守り育てる町を目指します。
2. 大洲町で暮らしたい人を積極的に受け入れ、人口減少が緩やかになっていることを目指します。
3. 独居・高齢世帯をはじめ皆が安心して暮らせる見守り体制・支え合いの地域を目指します。
4. 地域の自治活動は、ひとり多役からひとり一役で支え合う地域を目指し、無理のない地域運営体制と相互扶助の活きた町を目指します。
5. 町民だけで出来ないことは、町外在住者や専門家、行政などと協働して取り組む町を目指します。
6. 大洲ならではの里山にあふれる自然と、歴史ある宿場・まち並みを地域の財産として皆が認識し、触れ合い、守り、活用することを目指します。
7. それぞれがお互いの暮らしを尊重し合い、大洲での暮らしが楽しいと思える町を目指します。

OKUTE TOWN

2

第二編

分野別計画・重点取組・挑戦取組



暮らし続けたい地域をつくっていくのは、
大洲町に暮らす私たちひとり一人の、日常の行動から。

大洲町コミュニティ推進協議会が主体となり「町として取り組むこと」、
町の未来のために今日から「ひとりでもできること」、
声のかけられる範囲で集まり取り組める「チームや複数人でできること」、
の3つの軸でまとめました。

今日から、今から、町民ひとり一人の行動が、これからの大洲町を支えます。

町として取り組む計画

コミュニティ推進協議会と転入対策委員会が中心となって取り組みます

新規 空き家・空き地バンク整備

・転入対策委員会や顔の広い町の有志が中心となり、空き家や空き地の情報を把握する（月1回を継続実施）

・お店や事務所など、ビジネス活用が可能な物件情報は積極的に開示し、町でビジネスをしたい人を呼び込む

新規 住宅用地の整備

・住宅用地を整備し、移住者への土地の提供を行う

新規 転入のしおりの作成

・町の暮らし・風習・行事等に関するしおりを用意し、移住後に心地よく暮らせる環境や町民と良好な関係が築けるサポート体制を整備する

新規 森林バンク整備

・山を活用したい人と、所有者の橋渡しを行う仕組みを整備する

新規 住民理解の推進

・町民が、家を空き家にしない対策のための勉強会、先進事例を学ぶ勉強会を開催する（年1回程度）

・公民館講座や集まろう会の講座を町外の人も参加可能にして受け入れる

新規 情報発信の強化

・大洲町ならではの暮らしや、移住者・Uターン者の体験談などを掲載するホームページまたはSNSを作成し、町外の人へ発信する

継続 交流活動の推進

・大洲町を知ってもらう機会として、オオクテ・ツクルテ等のイベントを開催する

継続 行政との連携強化

・空き家のオーナーに瑞浪市の空き家バンクに物件情報を登録するよう促したり、市主導の移住フェア出展時に情報を提供する

Action

ひとりでもできること

大漁太鼓や集まろう会の活動に、出来ることで関わろう！

神事や祭事に参加しよう！

大漁ならではの食文化を近所のお年寄りから学ぼう！



Action

仲間や複数人でできること

みんなの体験ファームで野菜を育て、食育や町内外交流につなげよう！



Action

仲間や複数人でできること

挑戦取組
若手が中心に
取り組みます

年に一回家をギャラリーとして開放し、町の特色や創作活動を知ってもらえたら面白そう！（大湫オープンビレッジ：仮）

寺子屋など子どもたちが学べる場を作りたい！

特技や好きなことを活かして、「つくる」ことを楽しんで暮らしたいね！

オフグリッド*の家をつくる講座を開きたいな！

*電力会社の送電網につながっていない状態、あるいは電力会社に頼らずとも電力を自給自足している状態を指します。

子育て世代で集まって食事会を開いてみよう。相談し合えるつながりができそうだね。



親子や仲間で防災キャンプをしたり、子供会でキャンプ飯づくりを開催しよう！



project 1

自治再編

自治再編へ舵を切る

今後は人口減少で、これまでと同じ規模の活動はできなくなっていきます。今のままでは負担が大きく、若い世代も大洲町に戻ってこよう、大洲町に移住して子育てしようという気持ちになりにくいのが現状です。アンケートでも、会議のための事前打ち合わせや関係者への調整、関心の薄い人が当て職で取り組まなくてならない状況を解消していきたいとの声が出ています。まずは、現状を把握し、どのように問題解決に取り組んでいくのか方針を立てていかねばなりません。

これまでのように 60 代 70 代が頑張り続けて、若い世代はまちづくりに参画しなくても良いということではなく、子育て世代が仕事や子育てをしながらでも無理なく参画できるまちづくりの体制にしてく必要があります。

また新しく取り組む活動は町の委員会などに属していないため、承認や報告の体制など、新しい枠組みを用意する必要があります。若手や移住者らが気軽に新しいことにチャレンジできる仕組みを町として用意し、任せていくことが町の魅力づくりにもつながります。

令和3年度 再編チーム結成と現状把握

1. 行事や役、それに付随する年間の会議数等などを調べ、負担の偏りを調べて共有する。どの負担を軽減し、見直し・統合していくか協議する。外部の専門家の意見を仰ぎながら進めていく。
2. 委員会所属でない取組の報告・承認体制を見直す。予算書提出や活動報告は必須としながらも、各活動の実行者を信頼して一任する体制を整える。
3. コミュニティ推進協議会の事業に、チャレンジ取組枠を設けるなどし、新しい取組を行いやすい仕組みを検討・導入する。

令和4年度 小さく実行

1. 前年度で話し合ったことを、ひとつは取り組んでみる。不都合があれば元に戻すことも良しとする。
2. 新しい取組提案があった場合は、一度信頼して任せてみる。

令和5年度 新たな見直しと改善

1. 次の 3 年で、どのように行事や役、付随する会議を見直すか計画を立てる。

project 2

大杉復興事業

再び大洲町のシンボルとして

神明神社の大杉は町のシンボルとして、町民の心の拠り所として、1300 年の間町を見守ってきました。しかし、令和２年７月 11 日深夜に豪雨により倒木し、その様子は全国ニュースで何度も取り上げられるほどでした。

町民は倒木翌日からボランティア活動を行い、一丸となって復旧作業に取り組みました。同時に、町民主体で「神明大杉再生検討会議」を組織し、どのように大杉を残していくか議論を重ねました。市内 30 箇所に募金箱を設置し、町民をはじめ、瑞浪市民や地元企業、ニュースを見た方々から寄付をいただきました。また、大洲町の若手で結成された「大洲大杉を応援する若手有志の会」がクラウドファンディングを行い、全国へ支援を呼びかけました。

瑞浪市や岐阜県、多くの方からの想いと支援を受けて、文化財としての保存を第一に、より良い形での大杉の活用取り組んでいきます。そして大杉をこれからも変わらず、町民の心の拠り所、大洲町のシンボル・町の核として再生させていきます。



倒木前の大杉



倒木翌日の様子



倒木後の作業の様子



大杉の保存・活用の方向性

①伝承：しめ縄かけ、火祭りなど、人々の心の伝承
②文化：自然的文化財としての保存
③観光：周辺を含めた観光拠点整備
④もの：大杉を活用した製品づくり（バイオリン、ギター、木工製品など）
⑤研究：大学との連携・研究

令和3年度

保存と素材提供

- プロポーザル方式により大杉保存活用工事の実施事業者を選定し、敷地内の整備を進める。
- 大杉の切り出し。根っこから数メートルは文化財として境内に立てて保存する。それ以外の部分は、活用を希望する事業者や町内の芸術家へ提供する。
- 大学などと連携し、歴史を記録する素材として、大洲や日本の環境変化などの調査に役立てる。

令和4年度

心の伝承

- 保存した大杉のしめ縄かけを復活する。
- 大杉を偲ぶイベントなどを開催する。

令和5年度

観光拠点整備・活用

- 新しい形で生まれ変わった大杉を、大洲町の新たな観光拠点として活かす。
- 大杉を紹介する施設整備、大杉を活用したお土産づくりを行う。大杉を活用したモニュメントを制作する。
- 大杉の苗を植樹した「大杉の森」での野外活動などを企画し、地域の活性化に取り組む。

project 3

移住定住促進

人とのつながりを大切に

今後の大洲町のまちづくりを支える鍵は、移住者をどのように呼び込み、大洲町に馴染んで暮らしてもらえるかにかかっています。まずは、イベントやインターネットでの発信を通して大洲町を知ってもらうところからはじめ、何度か大洲町に足を運ぶようになってもらい、大洲町に合うかどうかを確かめていきます。移住者も受け入れる側も、お互いが、気持ちの良い状態で暮らしていけることが重要です。

2014 年からの 4 年で 30 人の移住者を呼び込んだという成果を上げたのは、転入対策委員会をはじめとした、移住希望者への細やかなケアがあってこそです。また、空き家になってしまっていた古民家を清掃するなど、移住者だけでは負担が大きく移住のハードルが高くなってしまう部分を、町民のボランティア活動でフォローしてきました。

現在では、移住者が新しい移住者を呼び込んだり、移住者の積極的な取組が町の魅力の一つとなり、そこに惹かれて移住者がやってくるきっかけになっています。町を楽しむ人が増えることが、新しい人を呼び込むことにつながっています。

令和3年度

年間1組以上の移住者を呼び込む
年間1軒以上の空き家を貸せる状態に整える

・把握している空き家を年１軒は掃除をして貸せる状態にする。
・住宅用地に整備できる箇所を把握する。
・掃除や片付け等は町外の人にも関わってもらえるよう、SNSなどで発信する。（情報発信の強化）

令和4年度

年間1組以上の移住者を呼び込む
年間1軒以上の空き家を貸せる状態に整える

・住宅用地の整備に向けて整備計画をつくる。
・転入対策委員会を中心に、転入のしおりを作成する。

令和5年度

年間1組以上の移住者を呼び込む
住宅用地を整備する

・住宅用地を整備し、空き家以外の方法でも大洲町に住めるようにする。

総合振興計画策定を振り返って



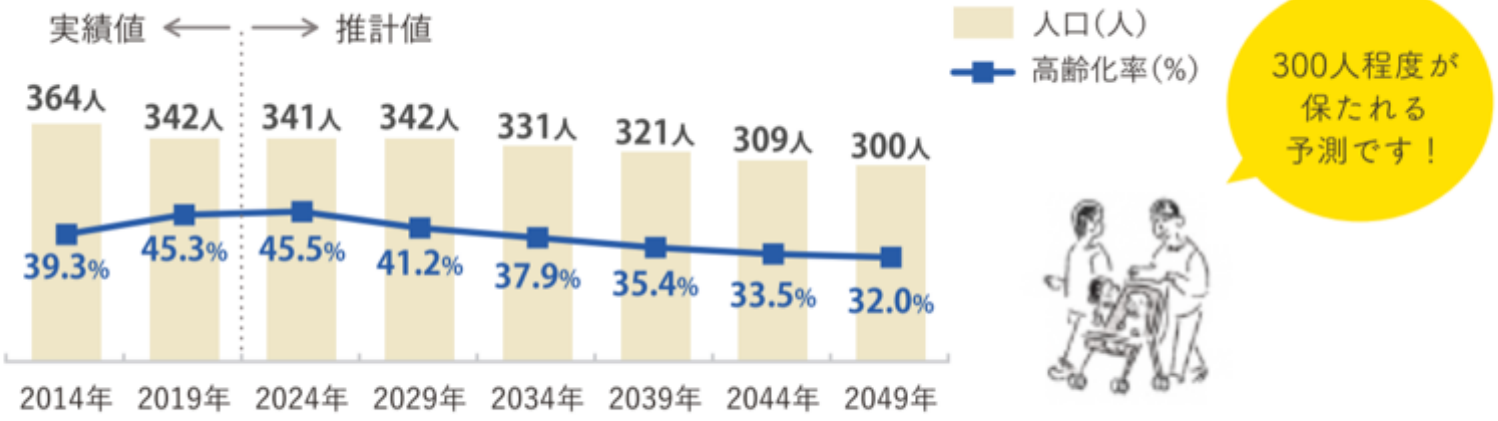


人が暮らしていて、町が成り立つ
移住者・出身者をあたたかく迎え入れる地域づくり

移住定住

毎年1組の移住者を迎え入れていくと、人口減少が緩やかになる予測です。
（30代前半の夫婦が4歳以下の子どもを連れて移住した場合）
移住者を受け入れ続ける取組や、転入者をあたたかく迎え入れる地域の風土を町全体で高めていきます。

今後、毎年1組の移住者を迎え入れた場合の推移予測



（出所：2019年 瑞浪市住民基本台帳データ「町別人口ピラミッド」を元に推計）




禁煙

みんなでつくる

大洲のミライ 総合計画プロジェクト2020

この1年を通して話し合い、まとめた計画書は年度内に皆さんにお渡しできるよう、仕上げを行っています。計画づくりを行ってきた「青年チーム」は、各区長さんから選出された方、移住者、若手議員、町外からの外部サポーターなどメンバー20名で構成されています。活動報告最終号の今回は任意で10名のメンバーから1年の活動の感想をもらいました。



奥村義二さん

今回、大洲の総合計画作りに参加できて良かったと思います。今まで自分とは接点のなかった方と知り合うことができ、とても刺激をもらいました。また、計画づくりに携わっていると大洲の魅力を再認識し、自分の価値観を見直す機会となりました。これから自分の為に、ふるさとの為にできることから始めようと思っています。今後ともよろしくお願いします。



板橋輝繁さん

昨年は大洲町にとって大きな出来事がありました。その様な中、普段ではなかなか話しをする事が出来ない方と会話や作業をする機会が多々ありました。そこで得られた大洲町に対する考え方や感じ方を今後の生活の中で活かしていけたら嬉しく思います。又、今後この様な機会があれば参加していきたいと思います。



棚橋哲夫さん

将来の大洲を語る機会を得られたことはいい経験になりました。この機会をもとに今後も大洲の未来について考えていきたいと思います。



樋田翔太さん

若手の会で出した意見も反映され、良い形でまとまってきたと思います。これからの行動に移せる形にしっかり落とし込んでいきたいです。

当プロジェクトは令和2年度夢づくり地域交付金（ステップアップ事業）に採択され、大洲町コミュニティ推進協議会が管理運営する事業です。実施は一般社団法人サステナに一部業務を委託します。



玉川幸枝さん

大洲町の魅力を改めて見つめ直すことができた機会でした。活動している中で、この町の未来を考えてワクワクしました！移住してから転入対策委員として楽しく活動させてもらっています。これからも進化していく大洲町に関わり続けたいと思います。

改めて総合振興計画をつくり、本当にいい計画ができたと思います。自分たちのための計画なんだと強く思うようになりました。現状と課題を知り、より大洲町らしい優しい町になれるといいと思います。



田村啓さん



加治木寛えさん

趣味から知った大洲町。いままで全然知らなかったことがいざ関わってみて終わってみると大洲のファンになりました。

総合計画の企画に関わることで、自分の将来も考えるようになりました。子どもたちが大きくなったときに楽しかったと思ってもらえるような町でありたいと思いました。



秋山仁恵さん



足立貴一さん

与えられた環境の中で暮らすというところから、自分たちの暮らしをつくっていくというところへ転換する良いきっかけになったと思います。計画の策定で終わることなく、実現に向けて今後も取り組んでいきます。

まちの未来について同年輩の方々と話すということは、移住者の僕にはあまりなかったことで、とても貴重な場でした。これを機に、この計画と共に、こうした場を続けていけると良いなと思いました。



山下千尋さん

大洲町総合振興計画報告会を予定しています

報告書の内容についてや、取り組みの振り返り、今後の活用について町民の皆さんと話し合いを行いたいと考えています。3月中に開催予定です。日程が決まり次第お知らせします。よろしくお願いいたします。

【今まで】未来の計画も町のことも区長会にまかせてきたことだった

【事業を通じての変化】自分は何をやるのか？自分ごとになった。
それがまちづくりだと考えが変化した

- 改めて、大洲になぜ暮らしているのかを見つめ直した
- 年が近くても接点がなかなかなかった移住者の人と深く話せて自分にできることを考えられた
- 分からないことでも皆で話し合って決めることが大事だと気づいた
- 区長会が決めたことをやる、与えられた環境でやっていくのが普通だったが、自分たちで暮らしを作っていけるんだと考えが変化した
- この計画に書いたことは自分たちがこれから暮らしていきたい理想の大洲町の姿。皆でそれを考えられたことがよかった
- 実現に向けて自分たちは何をするのか？いろいろなことが自分ごとになった
- これからの町の姿や、やりたい事を話せる仲間ができた